

# 奥大和構想 グランドマップ

現状分析

## 【奥大和の強み】

- ・日本の昔からの暮らしがある  
(自主自立を基本とし、助け合い、つながり、自然と共生した暮らし)
- ・エネルギー自立エリア(水力発電)

## 【奥大和の課題】

- ・急激な人口減少
- ・世界、全国に先駆けた超少子高齢社会への突入→課題先進地

## 【時代・世界の流れ、国の動き】

- ・地方へのヒト・カネの流れ
- ・SDGs(持続可能な社会の実現)
- ・カーボンニュートラル
- ・脱原発

志(こころざし) : 世界に誇る奥大和の「あたりまえの暮らし」を、次世代に繋げていきたい

ビジョン

グランド  
ビジョン

## 奥大和の「あたりまえの暮らし」を世界に

世界に誇る奥大和の3つのあたりまえ

- ① 自主自立があたりまえ
- ② 助け合う、つながることがあたりまえ
- ③ 自然と共生することがあたりまえ

戦略

従前の”奥大和のブランディングに向けた取り組み”に加え、下記の戦略に重点的に取り組む

### 重点戦略①

#### 奥大和の暮らしを表現する拠点の形成

- ・奥大和の暮らしを象徴する拠点
- ・地域の若者が働きたくなる拠点
- ・交流、イノベーションが起こる拠点



### 重点戦略②

#### 地域を担う人材の育成

- ・地域ビジネスを担う人材の育成
- ・地域を守り育てる人材の育成
- ・次世代を担う人材の育成



## 全体戦略

地域資源(ヒト、モノ、コト)の洗い出し、再評価による施策の構築

スタートアップは、十津川村と下北山村で実施

戦術

### エリア別戦術①

#### 【十津川エリア】

#### 「リビングバウンド／暮らすような旅」の推進

世界の知識層や高感度層をターゲットに、“奥大和のあたりまえの暮らし”を体験してもらおう「リビングバウンド」を推進する。

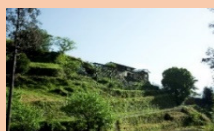
#### ■「リビングバウンド」を受け入れる拠点・体制づくり

##### ○拠点形成

- ・世界遺産「小辺路」のブランドや良質な温泉を活かした、「ホテル昴のリニューアルと近隣での新しい宿泊施設の誘致」、「小規模多機能拠点の整備」

##### ○人材育成

- ・アクティビティガイドの育成／体験メニューの開発
- ・農家民宿等の開業支援
- ・次世代を担うホテル・旅館等の後継者の育成
- ・十津川高校での実学コースの創設



### エリア別戦術②

#### 【下北山エリア】

#### 「フットボールヴィレッジ」の推進

サッカー合宿ができると認知されている下北山村で、より多くのサッカー合宿を誘致するため、世界基準を視野に入れた「フットボールヴィレッジ」を推進する。

#### ■「フットボールヴィレッジ」を推進できる拠点・体制づくり

##### ○拠点形成

- ・世界基準でのスポーツ合宿誘致を目指した、「小規模多機能拠点の整備」と「天然芝グラウンドの整備」
- ・実証実験として再生可能エネルギーや地元食材を活かした合宿施設等の整備

##### ○人材育成

- ・サッカー合宿を誘致できる人材の育成
- ・アクティビティガイドの育成／体験メニューの開発
- ・スポーツを軸とした関係人口の創出

